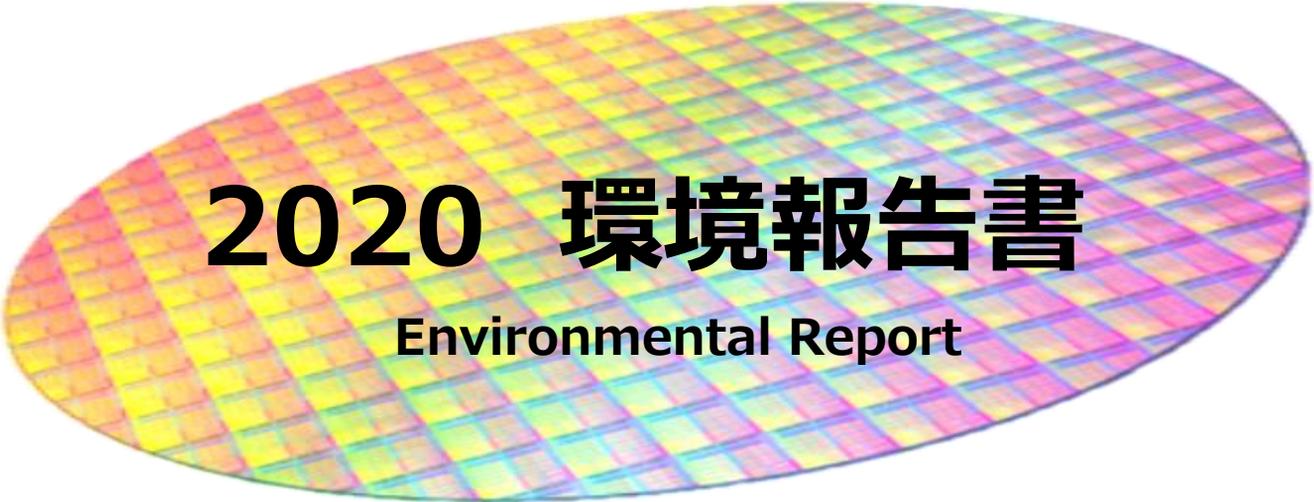


# TOSHIBA



## 2020 環境報告書

Environmental Report

ディスクリート半導体が支える、豊かな社会へ

### 加賀東芝エレクトロニクス株式会社

所在地：石川県能美市岩内町1番地1

創業：1986年1月

代表：取締役社長 徳永 英生

従業員数：約950名

生産品目：ディスクリート半導体製造（小信号、パワーデバイス、オプト）

# ■ 目次

Page.1	目次・持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて
Page.2	ごあいさつ・会社概要
Page.3	環境負荷低減、環境コミュニケーション・生物多様性
Page.4	環境負荷低減(施策紹介)
Page.5	環境法令の順守・環境管理
Page.6	環境教育
Page.7	当社の環境方針
Page.8	編集方針

# ■ 持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて



SDGsとは国際社会が持続可能な開発を実現するための重要な指針である17の目標です。東芝デバイス&ストレージ株式会社グループでは、SDGsの目標の多くが環境経営と密接な関係にあり、環境経営の推進によって達成に寄与すると考えています。

当社の事業活動に関連がある6の目標を、本報告書を通して紹介します。

**4** 質の高い教育を  
みんなに



「加賀東芝の森」森林整備活動を開催し、次世代を担う子供たちに環境に対する意識向上を図っています。(p.3,6)

**6** 安全な水とトイレ  
を世界中に



使用した水資源は、受け入れ時よりきれいにしてから自然に戻すための取り組みを行っています。(p.3,4,5)

**12** つくる責任  
つかう責任



生産工程で発生する環境負荷と製造コストを同時に削減する“高効率モノづくり”を追求しています。(p.3,4,5,6)

**13** 気候変動に  
具体的な対策を



製品量産の過程で発生する温室効果ガスの削減に取り組んでいます。(p.3,4)

**14** 海の豊かさを  
守ろう



海洋汚染の原因の一つである廃プラスチックの認識を深めるため、机上及び処理状況の勉強会を実施しています。(p.6)

**15** 陸の豊かさ  
も守ろう



地域に密着して豊かな自然を未来へ繋げる活動として、森づくりの整備を推進しています。(p.3)

# ■ごあいさつ



近年、日本においても異常気象による被害が増加しています。今夏も日本各地で、記録的な大雨による土砂崩れや河川の氾濫が相次ぎ、甚大な被害が発生している状況です。

異常気象の原因のひとつは、地球温暖化であると言われています。化石燃料の使用や森林の減少などにより、大気中の温室効果ガスの濃度が増加し、大気の温室効果が強まったことが地球温暖化の原因と考えられています。

また、ペットボトルやビニール袋などのプラスチックごみは自然分解される速度が遅く、マイクロプラスチックなど海洋汚染に発展して海の生物へ影響を与えるなど、地球規模で環境問題が深刻化しています。

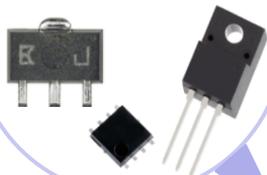
そのような背景の中、我々は東芝グループの一員として、半導体製造過程において発生する環境負荷を最小限に抑えるため、生産性改善施策を通じた「環境負荷低減施策の推進」と熱

心な取り組みを進めています。一人一人が環境について考え、実行し、会社としての総合力を発揮して取り組んでいきます。

## 会社概要

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、**ディスクリート半導体製品**（小信号デバイス、パワーデバイス、ハイパワーデバイスなど）の**開発・製造**拠点です。また、ディスクリート半導体は、さまざまな機器に利用されており、**省エネルギーの実現**に大きな役割を担っています。

### パワーデバイス



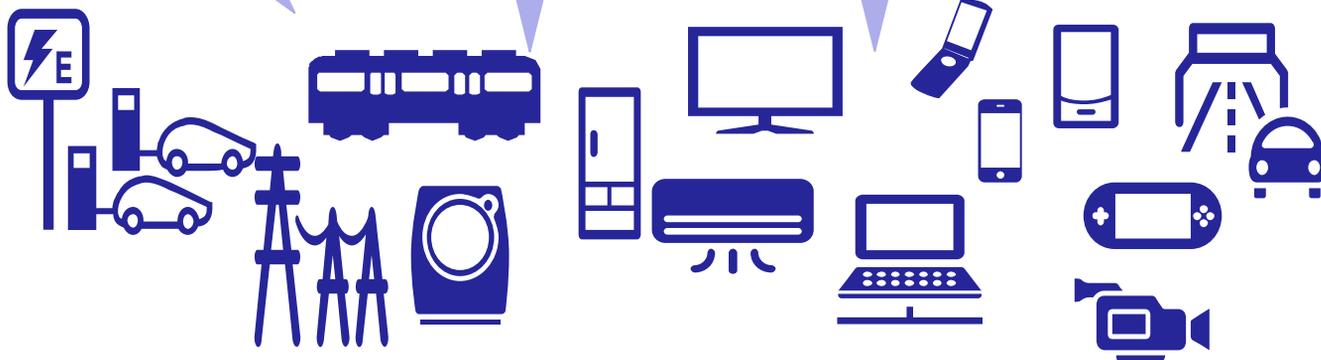
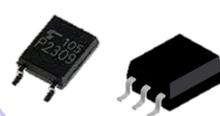
### ハイパワーデバイス



### 小信号デバイス



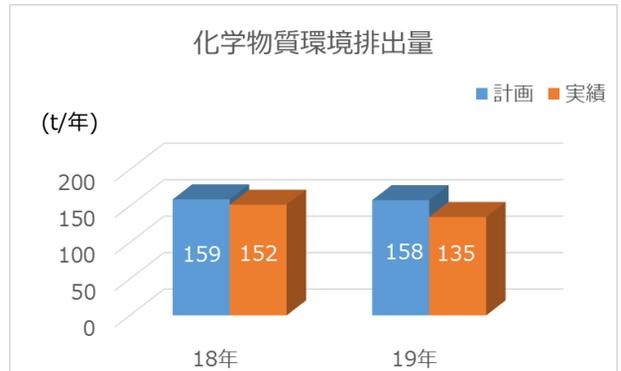
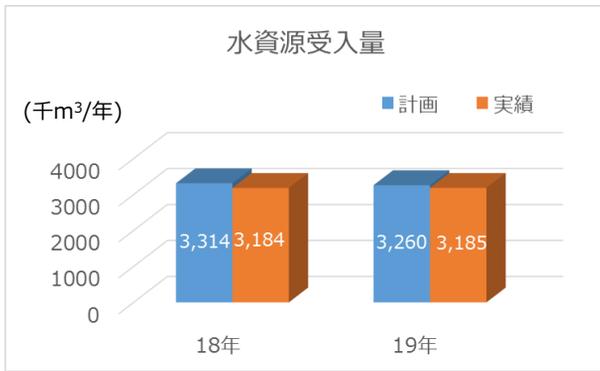
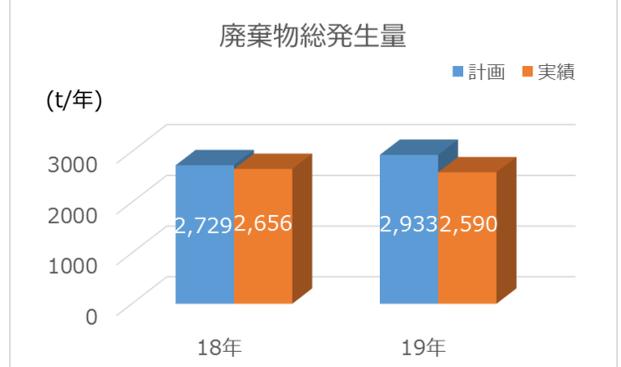
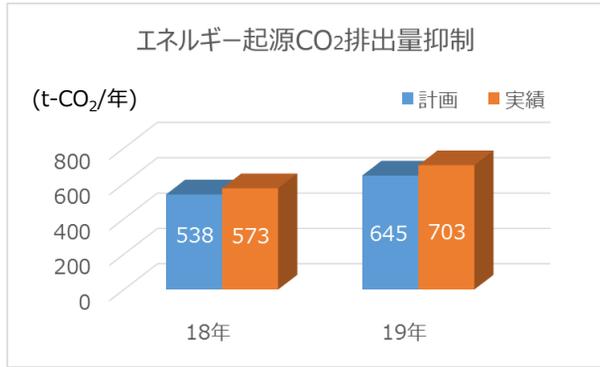
### 光半導体



# 環境負荷低減

## 環境目標の実績 ～環境に配慮した製造活動～

温暖化ガスや廃棄物など環境目標を設定し、発生量抑制に努力しています。



# 環境コミュニケーション・生物多様性活動

## 加賀東芝の森整備活動

会社近隣の辰口丘陵公園内の一部を借り受け、石川県、地元NPO、当社従業員にて森林保全整備活動を行っています。



## 生物多様性保全活動 ～石川県準絶滅保護種の植物保護～

会社敷地内に3種の植物が石川県の準絶滅保護種が生息しており、保全区域の整備、定点観測および保護を行っています。

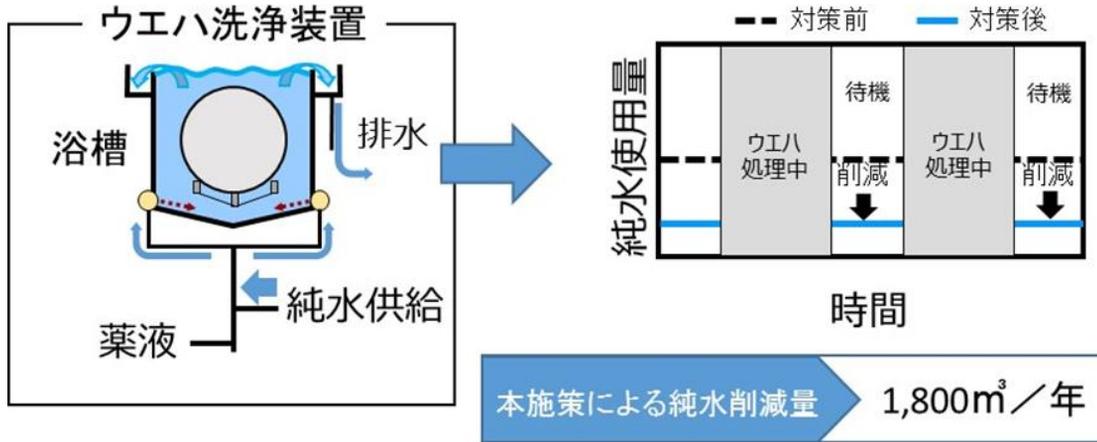




# 環境負荷低減(施策紹介)

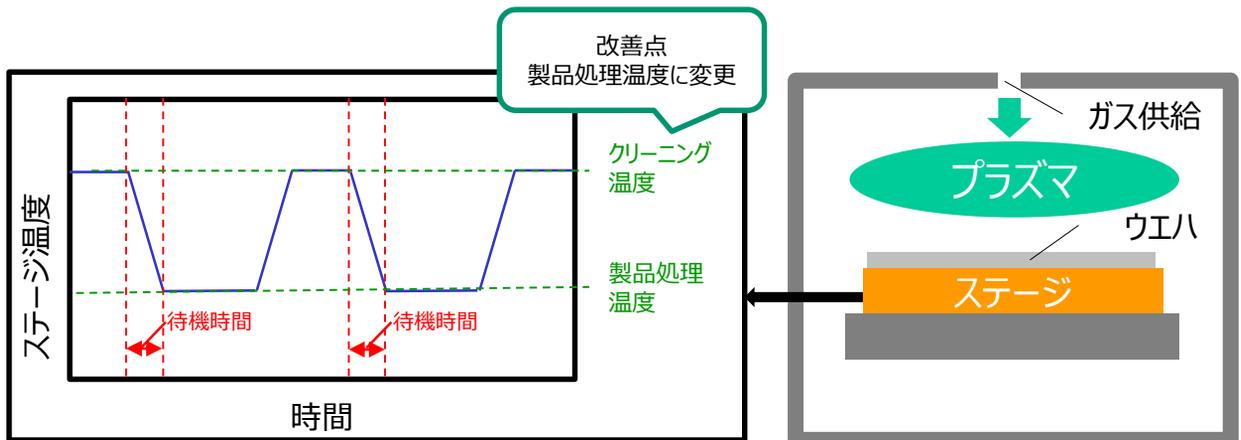
## 省エネ ～装置待機時の純水使用量の削減～

半導体製品を作るには多くの水を使用します。今回、ウエハを洗浄する装置で使う純水の削減を試みました。ウエハ洗浄以外（待機中）の純水に着目し、水質を保ちつつ純水の供給量を見直すことで年間約1,800m<sup>3</sup>の純水の使用量を削減できました。



## 温暖化物質削減 ～装置条件変更によるガス使用量削減～

半導体を微小化するためエッチング工程にてウエハを加工しますが、加工後、装置内をPFCガスにてきれいになります。今回、ウエハ加工以外（待機中）のPFCガス削減を検討した結果、「クリーニング温度」を「製品処理温度」に統一しても問題無いことが分かり、待機時間が不要となり、PFCガスの使用量を年間約24t-CO<sub>2</sub>の削減できました。





# 環境法令の順守・環境管理

## 排水管理 ～受け入れ時よりきれいに～

製造で使用した水はきれいに処理を行い、「手取川」に流しています。法令の規制値、協定値より厳しい自主管理値を設定し管理しています。

※実測値2019年度平均

	測定項目	水質汚濁防止法	協定値	自主管理基準値	実測値
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)	5.8～8.6	5.8～8.6	6.6～7.5	7.0
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	80	30	8	2.0
	化学的酸素要求量 (COD)	160	—	16	2.0
	浮遊物質	120	90	12	4.8
	亜鉛含有量	2	2	0.2	0.02
	全窒素含有量	—	—	22	12.6
有害物質	フッ素及びその化合物	8	8	7	4.4
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	100	100	17	8.2

## 大気測定

クリーンルーム内の温湿度管理のため、ボイラーを所有しています。法令の規制値、協定値より厳しい自主管理値を設定し管理しています。

※実測値2019年度最大

測定項目		単位	大気汚染防止法	協定値	自主管理基準値	実測値
ばいじん	炉筒煙管ボイラー	g/m <sup>3</sup> N	0.3	0.3	0.25	0.09
	小型貫流ボイラー		0.1	0.1	0.05	N D
窒素酸化物 (NOx)	炉筒煙管ボイラー	m <sup>3</sup> N/h	180	180	150	100
	小型貫流ボイラー		150	150	130	21
硫黄酸化物 (SOx)	炉筒煙管ボイラー	ppm	17.48	8.75	0.88	0.06
	小型貫流ボイラー		0.88	0.44	0.04	N D

## 定期立入調査

～石川県、能美市の立入調査～



## 環境マネジメントシステム

～ISO14001外部審査・社内監査～



# 環境教育

## 環境教育 ～e-learning～

全従業員に昨今の地球環境問題、会社の環境への取り組み、環境法令などを毎年教育を実施しています。



### 1. 世界の潮流 (SDGs持続可能な開発目標)

■SDGsとは Sustainable Development Goals の略称です。

2016年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2030年に達成するために掲げた目標です。

みなさん、最近このようなお悩みありませんか？  
「私は自然環境を大切にしたい」という意思を示しています。

### 2. 東芝グループの取り組み (東芝グループ長期環境ビジョン)

東芝グループでは、地球環境問題などの課題解決に「環境ビジョン2050」を設定しています。

- 環境ビジョン2050
- 「地球と調和した人類の豊かな生活を2050年のあるべき姿とし、その実現に向けた製品・サービス、モノづくりでの貢献を企業ビジョンに記しています。」
- 地球温暖化の防止
- 資源の有効活用
- 化学物質の管理

など幅広い問題に取り組み、企業としての環境影響をできる限り低減し、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることをめざしています。



## Eco活動コンテスト

新型コロナ感染拡大防止のため在宅している中で、家庭で実践したEco活動を募集し、環境意識向上に努めています。



## 環境問題の勉強会

～廃プラスチックの現状、処理について～

海洋汚染の原因の一つである廃プラスチックの認識を深めるために机上および処理場を訪問し、勉強会を実施しています。



## 異常想定訓練

薬品などの構外漏洩を未然に防ぐために様々な想定し、定期的に訓練を行っています。



# ■ 当社の環境方針

## 加賀東芝エレクトロニクス株式会社 環 境 方 針

### － 理 念 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、東芝グループの環境基本方針である「“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、我々が負うべき人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。既成社会、循環型社会、自然共生社会を目標とした環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

### － 方 針 －

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、東芝デバイス&ストレージ株式会社グループ環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置付けます。昔い平取川をはじめとする自営豊かな石川の地で、ディスクリット半導体の製造拠点として、製造、サービス、廃棄など全ての事業プロセスにおいて、ライフサイクルの視点に立って環境負荷の軽減を経営と調和させながら積極的に行います。そして最先端のパワートランジスタの創出を通じて、エコカー、省エネ家電、太陽光発電機器等の省エネ・省資源により社会に貢献することを目指します。

#### 1. 倫理観と継続性

- 1) 環境に関する、法令、条例、国定、当社組織が同意した業界などの要求事項および自主基準などを遵守致します。
- 2) 環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、効果的な運用を推進します。

#### 2. 実行

企業活動の実行においては、全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、製品の省エネルギー及び省資源開発・設計、環境負荷の軽減、汚染の防止などに関する環境目標を設定して、積極的な環境施策を展開します。

- 1) 気候変動緩和のため、生産性向上、動力・駆動設備を中心とした省エネ設備と高効率ガス排出低炭素装置を推進し、地球温暖化防止に貢献します。
- 2) 循環型社会構築のために、事業活動に伴い投入する資源の最小化と3Rを推進し、廃棄物並びに水資源の有効活用に取り組みます。
- 3) 環境リスク低減のため、事業活動に伴い使用する化学物質の管理、取扱い並びに排出量の削減に取り組みます。
- 4) 自然との共生を図るため、生物多様性の維持・回復に取り組みます。
- 5) 環境に関する情報発信、社会活動への参画を進め、地域・社会との相互理解を推進致します。
- 6) 組織の従業員の環境意識を高め、環境に配慮した企業活動を協賛地域内の構内帯同会社およびその従業員を含む全部門・全従業員で実行します。

<この環境方針は、当社敷地内の構内帯同会社及びその従業員を含む全部門・全従業員、

取引先等にも適用するとともに、一般の人にも開示します。>

2020年 4月 1日

加賀東芝エレクトロニクス株式会社

取締役社長

徳永義生

# ■ 編集方針

## 編集方針

本環境報告書は加賀東芝エレクトロニクス株式会社の**環境経営の取り組み**について、ステークホルダー※の皆様に開示しています。

なお、掲載内容は**2019年度の実績**を中心としています。

※当社の事業活動と関わりを持つ方のことです。

## 参考文献

本報告書の発行にあたり、環境省発行の「環境報告書ガイドライン」などを参考にしています。

## 報告の対象範囲

対象期間 : **2019年 4月～2020年 8月**

対象組織 : **加賀東芝エレクトロニクス株式会社** 及び  
**当社内の常駐会社**

## 加賀東芝エレクトロニクス株式会社

〒923-1293 石川県能美市岩内町1番地1

【お問い合わせ先】

施設管理部 環境保全担当

TEL : 0761-51-7817

FAX : 0761-51-7168